

# J A岡山中期計画の取り組み

## 【令和4年度実践概況報告】

当JAは、令和4年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から令和6年度までの3力年において、その取り組みを進めています。

中期計画の具体的な取り組み内容は、第35回岡山県JA大会で決議された「不断の自己改革の実践」に向けて策定した「中期計画」に掲げる重点取り組み事項（7項目）別に、年度ごとの進捗管理や実践状況を検証した後、組合員・利用者の皆さまへ広報誌等を活用して情報発信することとしています。今月号では、3力年計画の初年度（令和4年度）の実践概況をご報告させていただきます。



### 1. 農畜産物の生産振興

①米の安定多収・省力化生産技術の確立と普及・拡大および高温耐性品種の調査・研究

・ドローンによる葉色診断結果に基づき、GIS地図システムに測定データの入力・蓄積を行いました。

・生産者、普及指導センターと追肥の必要性についての協議を行いました。

・ドローンを活用し、水稻の刈取適期診断を行い、情報をもとに適期刈取指導を実施しました。



・「簡易分解性被覆尿素」コート基肥一発肥料」について、被覆崩壊性の継続試験を行った結果、代掻き時の被覆殻の浮遊はなく、収量調査についても良好な結果が得られました。

・被覆コート肥料の流出防止対策を目的に4割低減の肥料試験を行いました。

・収量調査の結果、現行のプライベートブランド肥料と同等の結果となりましたが、肥効面・コスト面で課題があり、次年度以降も継続して実証試験を行うこととしました。

・高温耐性有望品種として「つやきらり」の収量調査を行い、対照区の「ヒノヒカリ」に比べて、収量性、品質において優位性が確認できました。

#### 【収量調査結果】

つやきらり：750粒/10㎡  
ヒノヒカリ：593粒/10㎡

また、食味官能試験においても「つやきらり」は「ヒノヒカリ」と同等の評価が得られました。

#### ②麦類の高品質生産対策

・小麦「ふくほのか」について、タンパク含有量向上の実証試験を行い、化成肥料14-14-14+実肥

硫安区が収量、タンパク含有量において有効であることが確認できました。

・二条大麦「サチホゴルデン」作付け1年目として粗タンパク含有量を測定し、平均タンパク含有量10・2%を確保しました。

・普及指導センターと連携し、小麦の高品質・安定生産に向けて実肥の施肥指導を行いました。（西大寺宮農センター管内11会場・参加者97名）

・全生産者のタンパク含有量を測定し、適正値以下の生産者に対して追肥指導を行いました。

・土壌診断を実施し、pH、腐植など不足しているほ場が多い傾向であったため、診断結果に基づき、施肥ならびに土づくり等の改善提案を行いました。

### ③園芸品目の生産拡大と産地の活性化

・営農振興支援事業の組合員への周知を継続して行い、管内農産物の生産拡大ならびに果樹の新改植による園地更新を図りました。

#### 【新規作付拡大面積】

・営農振興支援事業生産拡大実績

#### （3月末現在）

##### 〈野菜〉

重点品目（夏秋ナス、白菜、キャベツ、タマネギ、レタス） 2・76畝

その他（ホウレン草、小松菜、イチゴ他） 6・96畝

##### 〈果樹〉

・モモ（清水白桃・おかやま夢白桃・白皇<sup>®</sup>）の新改植面積4・8畝（うち新植面積2・0畝）

・ブドウ（ピオーネ・シャインマスカット・オーロラブラック・紫苑）の新改植面積5・5畝（うち新植面積1・1畝）

・新規就農予定者5名が体験研修を行い、うち実務研修者3名に向け支援を行いました。（岡山市：モモ2名、ブドウ1名）また、行政と連携した各種事業に取り組み、新規就農者数18名（岡山市8名、瀬戸内市2名、玉野市3名、吉備中央町5名）を確保しました。

・もも農業塾（塾生：10名）、ぶどう農業塾（塾生：15名）を実施し、受講終了後、生産部会、直売所会員への加入推進を行いました。



##### 〈花卉〉

・各営農センターと連携し、花卉の新規栽培者の募集を行うための相談会を開催しました。（管内4力所）

・関係機関と新規就農者の情報共有を図るため、定例会へ出席し、就農支援に向けて情報交換を行いました。（11回）

### ④和牛繁殖経営の安定

・関係機関と同行し、「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」を活用した飼養管理技術指導、県の基幹種雄牛を活用した交配指導を行いました。年間出荷頭数248頭のうち、31頭の「おかやま四ツ☆子牛」を市場へ出荷しました。（出荷率12・5%）

## 2. 販売戦略の強化と販売体制づくり

### 農畜産物販売高103億円の確保

⑤大規模農家の法人化支援と集落営農組織の運営支援

・担い手サポートセンターと連携して農業経営セミナーを開催し、インボイス制度の説明会を実施しました。（参加者：183名）

・集落営農組織への高収益作物の品目提案（キャベツ・ブロッコリー・カボチャ等）と試験栽培を実施しました。（2組織）

・JA岡山の安定取引および実需者との結び付きを強化するため、米卸、実需者等との商談を延べ49回行いました。

・令和4年産米において関係部署および販売先との商談を行い、消費者直接販売を3,676・5俵行いました。（前年度対比91%）

・「晴々ロマン」2詰袋について、農産物直売所等で販売を行いました。

・JA岡山プライベートブランド商品の「温羅の舞」、「ヒノヒカリ」、「朝日」について、農産物直売所



等で精米販売を行いました。

・JA岡山米「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「朝日」等について、ホームセンター・郵便局等で玄米販売を行いました。

・モモ、ブドウの需要期に合わせて安定出荷販売を行うため、重点取引市場（関東、関西、地元市場）との連携により安定取引を行いました。（モモ：378ト、ブドウ：前年度対比166%、ブドウ：652ト/前年度対比97%）

・需要期に合わせて重点市場への冷蔵シャインマスカットの計画出荷を行いました。また、新たな販売先として関西市場への出荷を開始しました。全出荷量2・4ト（うち関東1・6ト、関西0・6ト、県内0・2ト）

・販売戦略の一環として、毎月2回（上期・下期）の産地情報ならびに市場情勢を産地、全農事務所、市場、営農センター園芸担当者からの情報を取りまとめ、情報共有を図ることで有利販売につなげました。

・秋冬野菜の全農向け業務・加工用出荷を計画的に行うとともに、

・TAC指導員の課題実践の取組成果報告会を開催し、活動内容について情報共有を図りました。

・全農と連携し、肥料・農薬メーカーとの同行訪問（商品紹介）を行い、担い手農家等への訪問強化を図りました。

・本所指導課職員による基礎技術研修（座学、現場研修など）を実施しました。（計2回：16名）  
・営農指導のスキルアップのため、本所指導課職員による営農センター新任職員向けの営農指導基礎研修会を開催しました。（計8回：参加人数58名）

#### 4. 「食」と「農」を基軸とした地域コミュニティの活性化

・**農業体験学習・親子料理教室の開催**  
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら女性部との連携による「ちゃぐりんフェスタ」を開催しました。（10会場）

施設茄子（備南）の期間相対取引による値決め販売を行い、有利販売につなげました。（キャベツ：5083ト、白菜：1,002ト、施設茄子：215ト）

・県、全農と連携し、イチゴ「晴母」の東京青果市場への計画出荷を行い、(株)ブランドの認知度の向上を図りました。全出荷量12・1ト（うち東京青果5・5ト）

・新型コロナウイルス感染症の影響により、県内外イベントが制約される中、岡山駅の「エキチカひろば」でJA岡山管内産のモモ・ブドウ（7月）、イチゴ（3月）の販売促進フェアを行いました。



256名参加：芋ほり、工作、野菜栽培、料理など）

#### 5. 総合事業を通じた生活インフラ（生活基盤）機能の発揮

##### ① 組員健康診断の実施

・巡回人間ドックや動脈硬化症健診を中心とした組員健康診断の実施に当たり、実施支所等でのポスター掲示による受診者の募集など、各地区において健診を実施することで、組員の疾病の早期発見など健康増進活動に取り組みました。（31会場：受診者数944名）

##### ② サロン「みんなのお家」の開催

・「JA岡山助け合いの会かがやき」との連携により各地域でサロン等を開催し、「JA健康寿命100歳プロジェクト」を実践することにも、高齢者の生きがいと交流の場を提供することで高齢者支援を行いました。（サロン：28回、利用者：301名（協力会員80名）、みんなのお家：9回、利用者：111名（協力会員34名））

・業務用一次加工品の「清水白桃シラップ漬け」「みかん果汁」について、外部委託による製造、県内菓子メーカーへの販売を計画的に行いました。（清水白桃：シラップ漬け3詰缶、5,215缶・前年度対比270%、みかん果汁：2詰缶、1,994袋・前年度対比124%）



・新規委託輸送会員の増加により、はなやか中央店の午後からの品揃え充実を図りました。（新規会員南ルート会員：28名、北ルート会員：12名）

・直売所会員向けに青果物の売れ筋ランキングと精算書を紙面に同封し、店舗の品揃えの充実を図るため、毎月情報提供を行いました。

・インターネット販売「花野果オンライン」の品揃え充実のため、新規に岡山白桃の晩生種の「白皇」、「沢田柿」、「すき焼きセット」等を掲載し販売につなげました。（令

#### 6. 支所等を拠点とした「JAくらしの活動」の実践

##### 地域独自イベントの開催、支所ふれあい旅行の実施

・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、地域独自イベントは開催せず、女性部との連携による「ちゃぐりんフェスタ」の開催や支所・営農センターだよりの発行など、年間を通じてくらしの活動の実践に取り組みました。行動制限緩和が進む中、全国旅行支援を活用し、年金友の会親睦旅行や女性部活動などを中心に企画旅行を実施しました。（20支所：22件）

#### 7. 正・准組員とのメンバースhipの強化

##### ① 女性部・フレッシュジュミスの活動紹介や加入促進

・地域内交流会を通じて、食品ロス削減について情報を共有し、女性部内の交流を図りました。女性部20支部：2,380名（うちフレッシュジュミス5支部：64名）

和4年度販売実績：9,963千円（税込） 前年度対比93%



・産地交流として、JAおきなわの加工品（ジュース、黒砂糖等）、JAえひめ中央の柑橘類の販売を通じて直売所の魅力ある店舗づくりに努めました。（販売金額：JAおきなわの加工品 946千円（税込）、JAえひめ中央 1,908千円（税込））  
・農産物直売所の新規出荷会員は、68名（うち委託輸送会員40名増加しました）。

#### 3. 営農指導体制の充実

##### TAC指導体制の充実

・TACリーダー会議を月1回開催し、担い手情報、各種試験の

##### ② 広報誌「ばれっと」およびホームページなどによるJAくらしの活動の紹介

・食農アンバサダー募集キャンペーンでは、305件の応募があり、全国から幅広い投稿が集まりました。賞品として人気の高いお肉とあたご梨をきっかけにキャンペーンに興味を持ってもらうことができました。選ばれたアンバサダー10名は、1カ月間に計46回の投稿を実施し、発信を通じてJA岡山の食と農の魅力を引き出し、イメージ向上を図りました。

##### ③ 女性参画に対する理解促進活動の実施

・男女共同参画のつどいin岡山を開催し、男女共同参画についての理解を深め意識の醸成と定着を図りました。

